

2009年8月5日

2009 衆院選 連続調査 第1回 報告書

(2009年7月22日～8月1日調査)

調査の設計	1
今回調査のポイント	2



社団法人 長野県世論調査協会
Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp/>

I 調査の設計

調査の目的

衆議院が7月21日に解散、総選挙が8月18日公示、同30日投開票の日程で行われる。前回(2005年)から4年ぶり、ほぼ任期満了による国民審判となる。

小泉内閣が「郵政民営化」を争点に掲げた前回衆院選で、自民・公明両党の連立与党が圧倒的多数を制したが、2年後の参院選(2007年)では民主党など野党が過半数を獲得し、国会は与野党が両院別々に優位という“ねじれ状態”に入り、対応力を失った連立政権は首相3人に小刻みに引き継がれる混迷に陥った。

昨年、米国に発した金融危機により世界経済が恐慌寸前にまで追い込まれ、失速した日本経済立て直しが急務のなかで、政治は解散・総選挙に向けた攻防に力がそがれ、迅速なリーダーシップ発揮に精彩を欠く局面が続いた。

こんどの選挙は「日本が本当の意味で20世紀を終え、21世紀に入る歴史的な総選挙である」(政治学者の佐々木毅氏・7月23日付信濃毎日新聞)とされる。各政党が競うマニフェスト(政権公約)に対する審判という最大テーマの「政権選択」にとどまらず 米国・中国との経済、安全保障 国のかたちと財政 高齢社会と経済発展 政治家と官僚 地方と中央 - など、日本の「自立選択」にからむ「あらゆるものが問われている」(佐々木氏) 節目といえる。

他方、政治と世論との位置関係は深化かつ微妙の度を増し、小選挙区制の導入が拍車をかけるかたちで、政権運営や選挙の動向を大きく左右する。こうした政治的環境に置かれた県下の有権者が時代と政治をどう見つめ、どのように1票を投じようとしているのか、協会登録モニター500人を対象とする連続調査(公示前、選挙期間中、選挙後の計3回)を実施する。

調査の設計

調査方法 当協会の登録モニターに事前に調査票を郵送し、回答は郵送、ファクス、電話聞き取り、インターネットを併用して回収。

【モニター～継続的な調査対象者】

1995年6月の参院選直前、県下の満20歳以上の1000人を対象に、政治意識調査を実施。その際、追跡調査に協力できるという人たち678人を対象に、選挙直後の同年7月に「参院選の投票行動」調査を行った。

これを「第1回モニター調査」と位置付け、1996年2月に男女別、年代別、選挙区別などの比率が“県下の有権者の縮図”となるように対象者を選定して第2回調査を行い、それ以降は半年間隔で年2回ずつ、定期的に続行している。この間、モニターは若干の補正を重ね、登録数は500人を維持している。

調査時期	2009年7月22日調査票発送～8月1日回収締め切り	
有効回収数(率)	487人(回収率97.4% = 男性240人 女性247人)	
回収内訳	郵送	253(52.0%)
	ファクス	125(25.7%)
	電話聞き取り	49(10.1%)
	インターネット	60(12.3%)

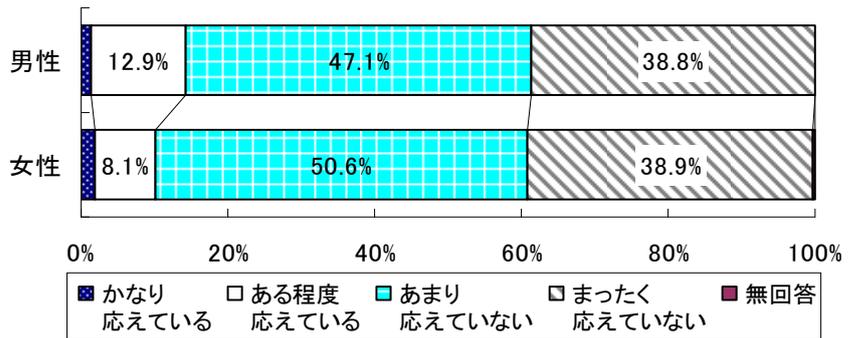
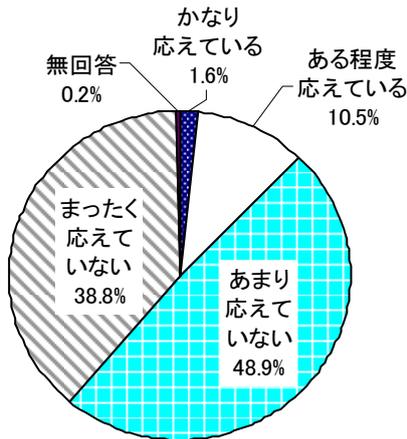
<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

II 今回調査のポイント

A 政治の現状を見つめる

◆国民の期待に応えているのか 否定的な受けとめが90%に迫る

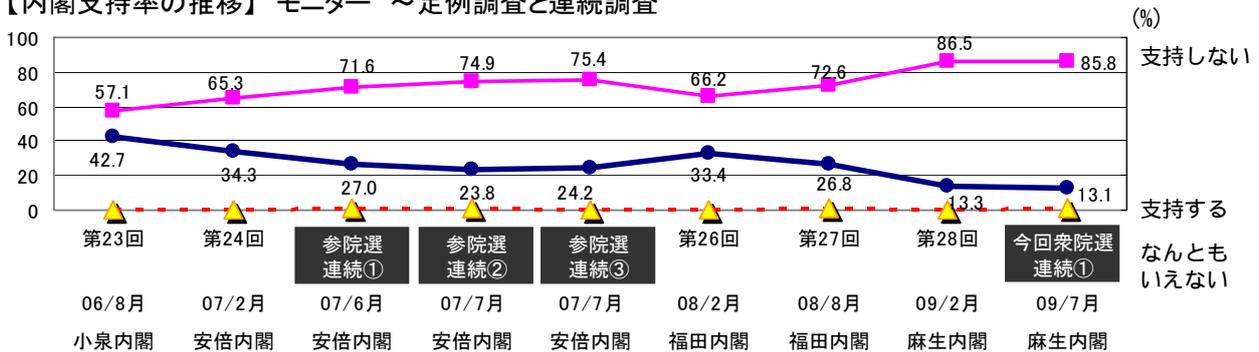
「応えている」総体で10%余。「応えていない」が90%に迫る厳しさ。70歳以上(以下「70代」と略記)で唯一、肯定的な反応が20%を超える。麻生内閣の支持層は50%が肯定的の一方、不支持層では「応えていない」が90%台に乗る。



自民党の支持層は「応えている」が40%余で最も高い。しかし「応えていない」は約60%に達し、連立与党の公明党や野党、支持政党なし層は圧倒的に高まる(自民党、民主党、支持政党なし層のほかの政党は回収数が少ないため数値、グラフとも参考=以下同じ)。

麻生首相の評価 「支持する」13% 不支持の高水準続き86%

【内閣支持率の推移】 モニター ~ 定例調査と連続調査



「支持する」が13.1%、「支持しない」は85.8%と、今年2月の定例モニター調査と変わらない。男女の違いはあまりなく70代と農・林・漁業で20%台に乗せる。自民党の支持層で支持46.4% - 不支持52.4%とかなり微妙な反応。民主党と無党派層は不支持が大半を占める。

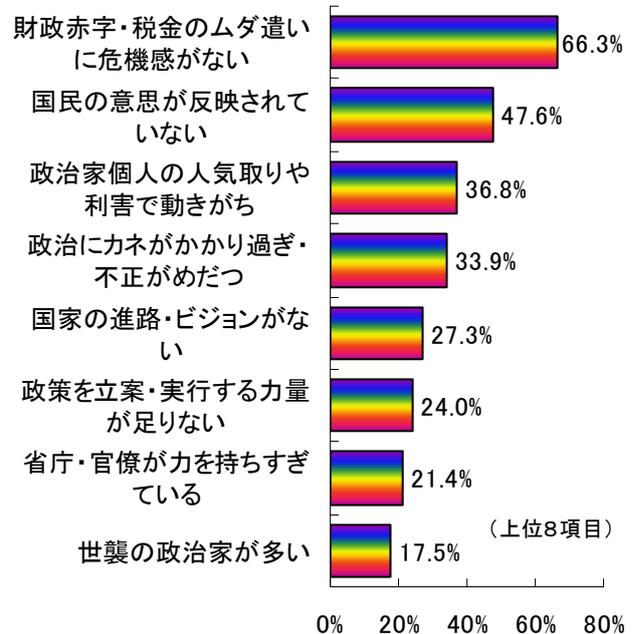
日本の政治に求めるもの

政治・政治家への不満・問題点 「財政赤字・税金ムダ遣い」突出

「財政赤字・税金のムダ遣いに危機感がない」が飛び抜けてトップ。2番目に「国民の意思が反映されていない」が挙げられ「政治家個人の人気取りや利害で動きがち」と「政治にカネがかかり過ぎ・不正がめだつ」が僅差で上位に並ぶ。

「財政赤字」に男女の違いはないが、男性で「人気取り・利害」と「国家の進路・ビジョンがない」(全体で5位)が高め。女性では「国民の意思」と「政治とカネ」が高めになっている。

職業層では「財政赤字」が農・林・漁業や商工・自営業、専業主婦で高め。「国民の意思」にはサラリーマン層、管理職層で高めの傾向が出ている。

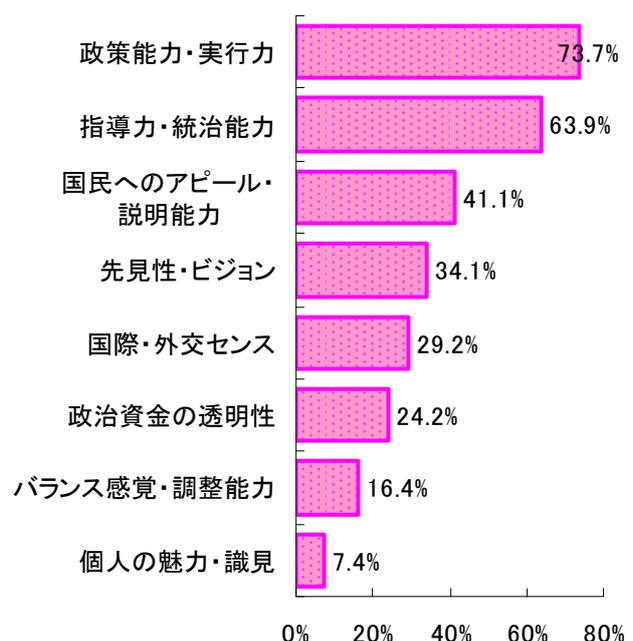


首相の資質・能力 「政策・実行力」トップ 続く「指導・統治力」

「政策能力・実行力」が最も多く「指導力・統治能力」が続く。かなり差があって「国民へのアピール・説明能力」「先見性・ビジョン」「国際・外交センス」が上位にランクされた。他方「個人の魅力・識見」「バランス感覚・調整能力」は下位に置かれる。

「政策能力」は女性と高齢層で高めで、「指導力」は40代でトップに並ぶ。

職業層では「政策能力」が専業主婦と農・林・漁業で飛び抜ける。「指導力」は管理職層でトップに挙げられ「説明能力」は商工・自営業、農・林・漁業などで高め。



支持する政党

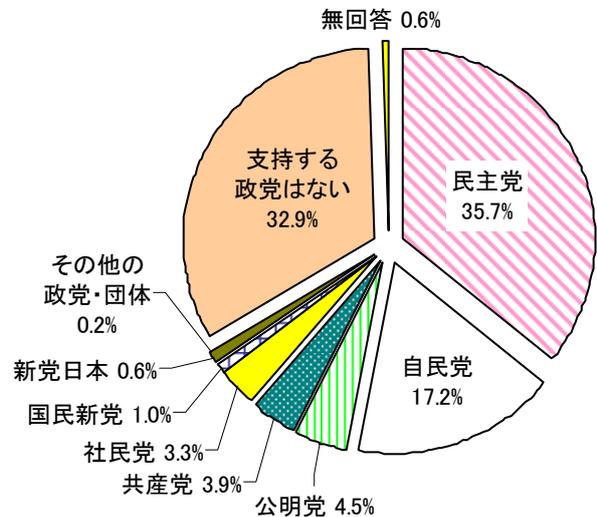
民主35.7% 自民17.2% 支持政党なし32.9%

「民主党」が35.7%、「自民党」は半分程度の17.2%。民主党は参院選で勝利した2年前の大差の状況を再現しつつある。その一方で支持政党なし層が高いレベルに戻ったのが特徴的。

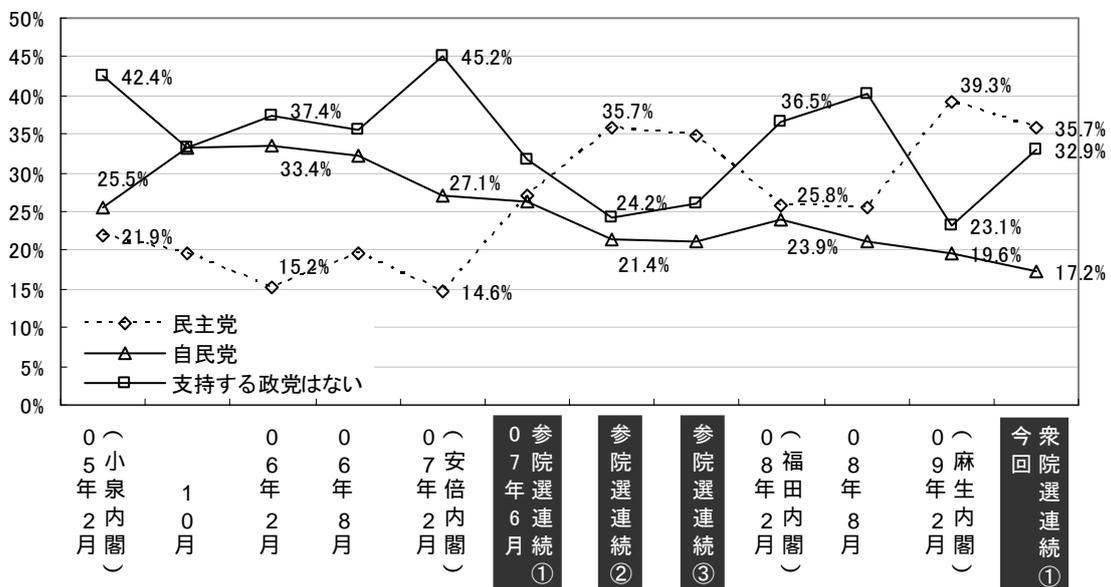
3位からは僅差で公明党、共産党、社民党の順で続く。

民主党は男性39% - 女性32%の“男高女低”の落差が続く。女性では支持政党なしが37%の高率になる。高齢層で民主党が高く、70代では46%に達する。他方、20代では30%を割り込む。

小選挙区で、民主党は2区と3区で40%に迫るが5区では28%に低迷。自民党は2区と5区で20%をクリアするものの、3区と4区では15%に及ばない。



【政党支持の推移】モニター ～定例調査と連続調査



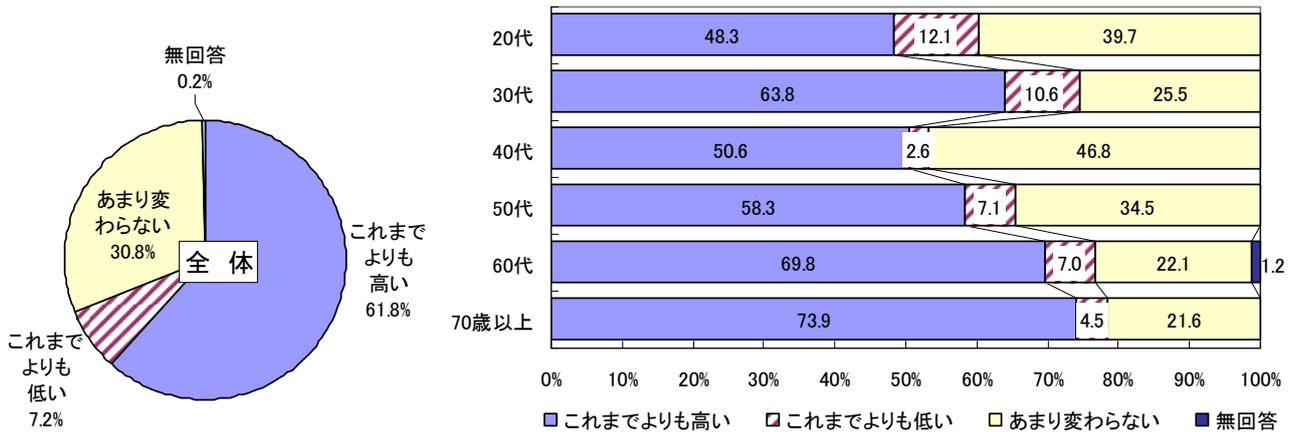
		標本数	民主党	自民党	公明党	共産党	社民党	国民新党	新党日本	改革クラブ	その他の政党・団体	支持する政党はない	無回答
選挙区	1区	117	35.0	16.2	6.8	1.7	2.6	1.7	0.9	-	-	34.2	0.9
	2区	105	38.1	21.9	3.8	3.8	3.8	-	1.0	-	-	26.7	1.0
	3区	108	39.8	13.0	1.9	6.5	5.6	-	-	-	-	33.3	-
	4区	71	36.6	14.1	5.6	-	-	4.2	1.4	-	1.4	35.2	1.4
	5区	86	27.9	20.9	4.7	7.0	3.5	-	-	-	-	36.0	-

B 総選挙の審判に向けて

◆こんどの衆院選の関心 「これまでより高い」60%突破

「これまでより高い」が62%、「あまり変わらない」は31%、「これまでよりも低い」が10%を割った。

男性で「高い」が65%と高く、年代層では70代で4人に3人を占めて最高。60代

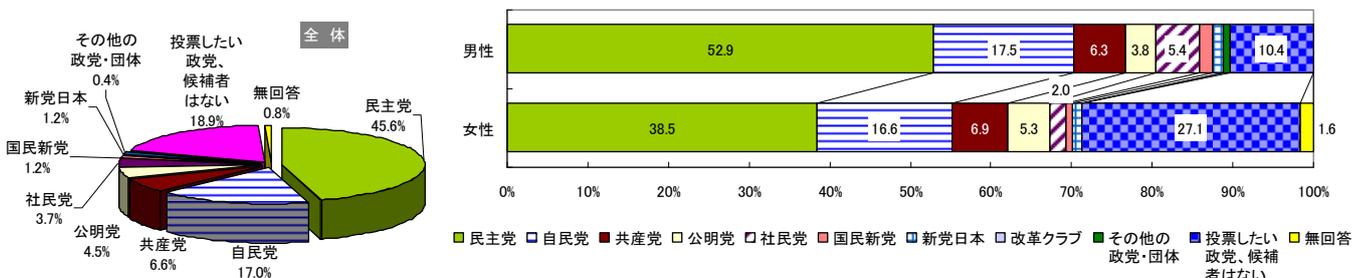


も高い。政党支持層では「高い」が民主党で80%に届く勢いなのに比べて、自民党では60%を割り込む。無党派層は「高い」48% - 「変わらない」41%とやや冷めている。

比例代表の投票 「民主」大差の46%で男性高く 「自民」は17%

「民主党」が46%の高率を示し、男性で50%を超す一方で、女性では40%に届かない。「自民党」は17%で男女差はほとんどみられない。3位に共産党(7%)が食い込み「公明党」「社民党」の順で続く。

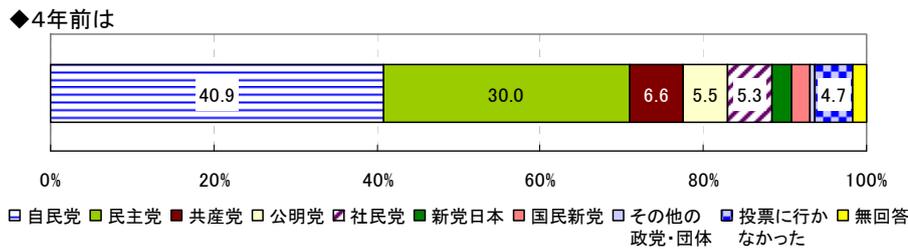
60代で「民主党」が57%と最も高く、20代では30%余に落ち込み「投票したい政党、候補者はない」が上回る。



小選挙区の投票 全区平均で「民主」47% 「自民」23%

小選挙区5つの平均は「民主党」がトップの47%で「自民党」(23%)と2倍の差が際立つ。3位からは「共産党」(6%)、「社民党」の順。民主党は比例代表と同じく“男高女低”がめだち、自民党投票も男性が高め。

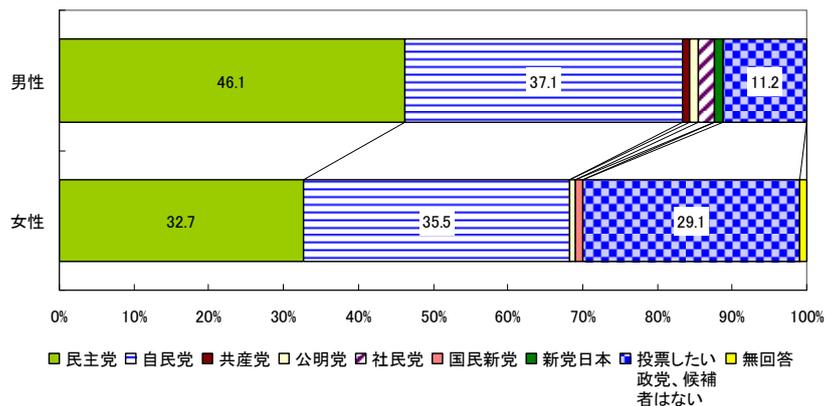
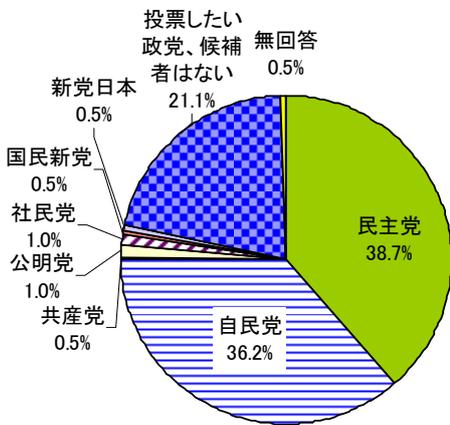
4年前の投票と今回の意向



◆自民に投票した層 今回は「民主に」流出39% 「自民に」劣勢の36%

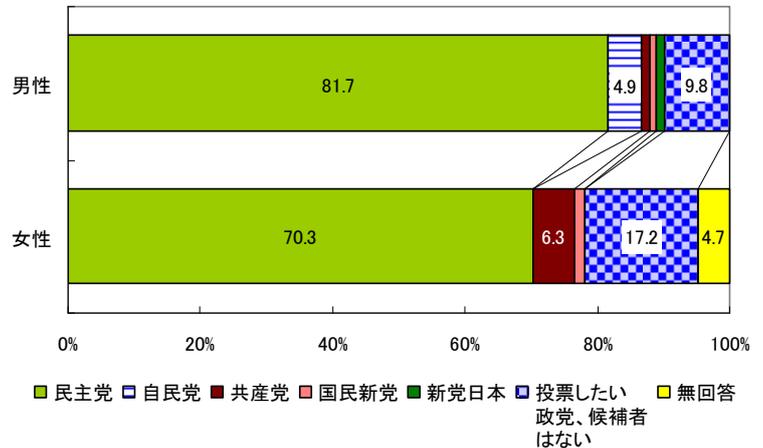
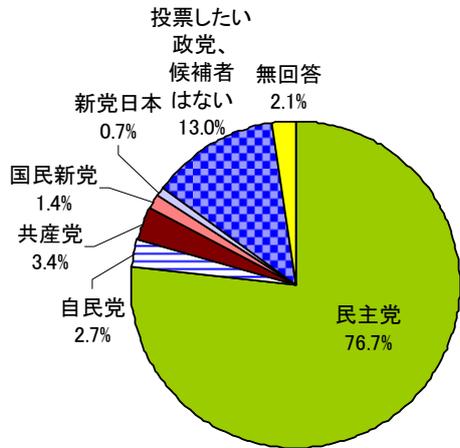
前回の比例代表で、自民党に投票した層は今回、民主党に39%移動、自民党には36%と真っ二つに分かれる。

このうち男性で民主党に投票が46%に伸び、女性では自民党が36%で優位になり、コントラストがはっきり。



◆ 民主に投票した層 「民主」に歩留まり77% 「自民」へは僅か

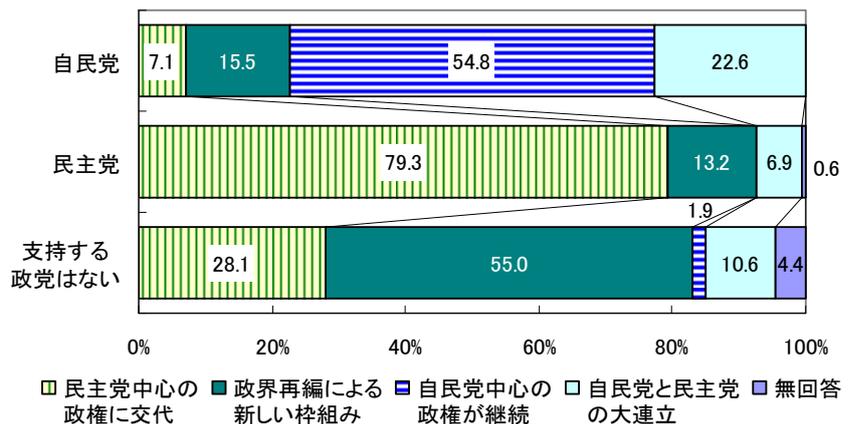
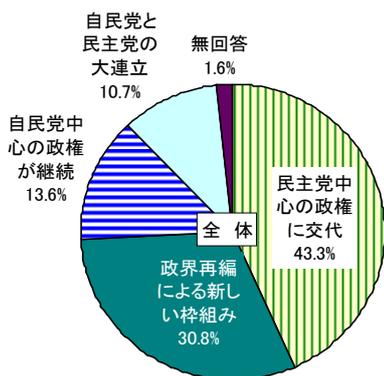
前回、民主党に投票した層では、民主党に77%の集中ぶり。自民党にはごく少ない。
男性で民主党に投票が82%に高まり、女性では大きく下がり70%。



こんごの政権の枠組み

「民主中心に交代」最多43% 「政界再編の新たな枠組みで」30%超

「民主党中心の政権に交代するのがよい」が最も多く43%。次いで「政界再編による新しい枠組みがよい」が30%超。「自民党中心の政権が継続するのがよい」と「自民党と民主党の大連立による政権がよい」は10%余にとどまる。



「民主党中心に交代」は男性で半数を超え、女性では「政界再編の新たな枠組み」が高めになるという温度差がみられる。年代層では、60代で「民主党中心」が54%と最も高い。「新たな枠組み」は若い年代層で高く、20代では40%を超える。

民主党の支持層は「民主党中心」に約80%の集中ぶり。他方、自民党では「自民党中心」が55%にとどまり「大連立」が20%を超える。無党派層は「政界再編」が55%にのぼり「民主党中心」は28%と、かなりのバラツキがみられる。